

ゆめっと プラザ

2012 ▶ 2013

100th
Anniversary

安城学園
100周年記念号



寺部だい先生の生涯
～無限の可能性に挑戦を続けて～

安城学園100周年記念事業

社会人基礎力育成事業

安城学園高校・岡崎城西高校・
幼稚園インタビュー 他

特集：1

寺部だい先生の生涯

「無限の可能性に挑戦を続けて」

安城学園の誕生

明治40年(1907年)11月には学校を退職し、帝国海軍の軍人、清水三蔵と結婚した。海軍将校の妻としての華やかな生活を送るはずだったが、突然三蔵が海軍を退官したため、二人で故郷の桜井村へ帰った。



ミシン実習(昭和5年)

明治44年(1911年)、桜井村から安城町(現安城市朝日町)へ生家を移築し、近所の娘さんに裁縫の指導を始めた。小学校の恩師のすすめで、女子に必要な家事・裁縫を中心として一般教養学科の一部を加えた女学校の設立を決意した。

明治45年(1912年)2月、設立が認可され『安城裁縫女学校』を開設した。29歳の時だった。校舎を増築するため、生まれたばかりの次男清毅(前理事長)を乳母車に乗せて金策に走り回った。

小学校の裁縫専科教員の養成のため、長女二三子を背負い夜々在校生に裁縫教授法と裁縫理論を講義した。裁縫専科の合格率も7割に上がり、大正6年(1917年)、校名を安城女子職業学校に変えて、女子の職業教育に力を注いだ。



朝日町通りから見た校舎・講堂(大正末期)

大正7年(1918年)、安城町は無料の補習女学校を新設したため、本学園は経営難に陥る。しかしこれを乗り越えるため、一段上の甲種中等程度実業学校への昇格を決意。校舎、講堂兼用務室を建築した。師範科の入学生も急増し、学校経営は年とともに隆盛の一途をたどるようになった。

大正13年(1924年)9月、『主婦の友』に寺部だいの半生が紹介。苦難の人生を雄々しく乗り越えて成長し、苦労の末、安城女子職業学校を築きあげるまでが掲載された。この記事は特に若い女性とその親に大きな反響を呼び、次の年からは全国各地から多くの入学生が集まつた。

無限の可能性に挑戦して

専門学校設立の準備をするも、中央政府には、地方の一農業地に、農業と家事を結びつけた専門を学ぶ女子教育の必要性がなかなか理解されず、約5年の年月を経て、昭和5年(1930年)に安城女子専門学校が認可されて開設した。

女性として結婚し6人の子どもを育てる一方、新しい時代を見据えて、どんな逆境でも乗り越えてみせた不屈の精神が、学園を拡充し発展させて学校経営を成功に導いた。



鳩山文部大臣の来校(昭和7年)

終戦後には夫の三蔵の急逝、教職追放の謹慎生活と幾多の苦難が降りかかるが、これらを乗り越え、そして新しい教育制度の改革を受け、安城女子専門学校を安城学園女子短期大学に、安城女子職業学校を安城学園女子高等学校として発足させた。次第に女子教育の総合学園として広く認められるようになった。



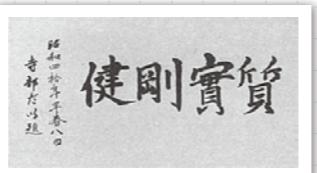
愛知学泉大学 岡崎キャンパス(昭和41年頃)

昭和33年(1958年)、藍綬褒章授受。昭和37年(1962年)、安城市名誉市民の称号を授受。

昭和37年(1962年)、地元の強い要請を受け、男子教育にも踏み出し、岡崎城西高等学校を開設した。

昭和41年(1966年)4月、悲願であった安城学園大学を開設した。しかし健康状態を崩し、その年の5月18日に83歳で生涯の幕を閉じた。だいにとっては志半ばの幕しめであった。だが、だい先生の生き様は、多くの卒業生の心の礎として、今日なお脈々と受け継がれている。

「人は誰でも無限の可能性を持っている。一人ひとりの潜在能力を可能性の限界まで開発することが教育です。」
(寺部だい談)



寺部だい先生直筆の書

安城学園 創立者 寺部だい



学問の目覚め

明治15年(1882年)、愛知県碧海郡桜井村(現安城市桜井町)に生まれる。

わずか5歳になったばかりの時、2ヶ月かけて母親と二人で善光寺参りをする。帰り道、道標に刻まれた文字を母親はやつつの思いで読み、道に迷わず家路に着いた。この貴重な体験から学問の大切さを身をもって知った母親は、まだ就学年齢に達していなかつただいを学校に通わせた。



寺部だい先生が裁縫を習った円光寺(昭和62年撮影)

6歳から13歳まで長谷部先生の漢学塾に通う。苦しい家庭環境の中、子守りをして家計を助けるかたわら勉学に励み、学ぶ歓びと学ぶ大切さを知る。

教師を目指して

初心を貫いて教師への道を志し、19歳の時に東京裁縫女学校(現東京家政大学)に入学した。さらに夜には教員養成所に通つたが、わずかな仕送りでは足りず、学費と生活費を自分で稼がねばならなかった。ある時は男装して人力車の車夫をするなど、想像を絶する苦学生活を送った。



母校、東京裁縫女学校の教員許可証(明治39年)

「私におそいかかって来る苦難の道は、いつまでつづくのか分らないが、小さい時から、母とともにこれに堪え抜くことに慣れてきた。これからも、どんな困苦にも押し倒されることなく、常に感謝の心をもって、切り開いてゆきたいと思い立った自分の道は、必ず貫徹したいから、国へは帰らない。」
(寺部だい自伝『おもいでぐさ』より)

強固な意志で信念を貫き、同郷の知人に助けられ、学び続けた。何度も失敗するが、それでも挫けずに明治38年(1905年)、東京裁縫女学校を卒業し、ついに教員免許を取得した。



石部実習補習女学校の実習教室(明治40年頃)

明治38年(1905年)、滋賀県にある石部実業補習女学校へ赴任。教員としての第一歩を歩み始めた。

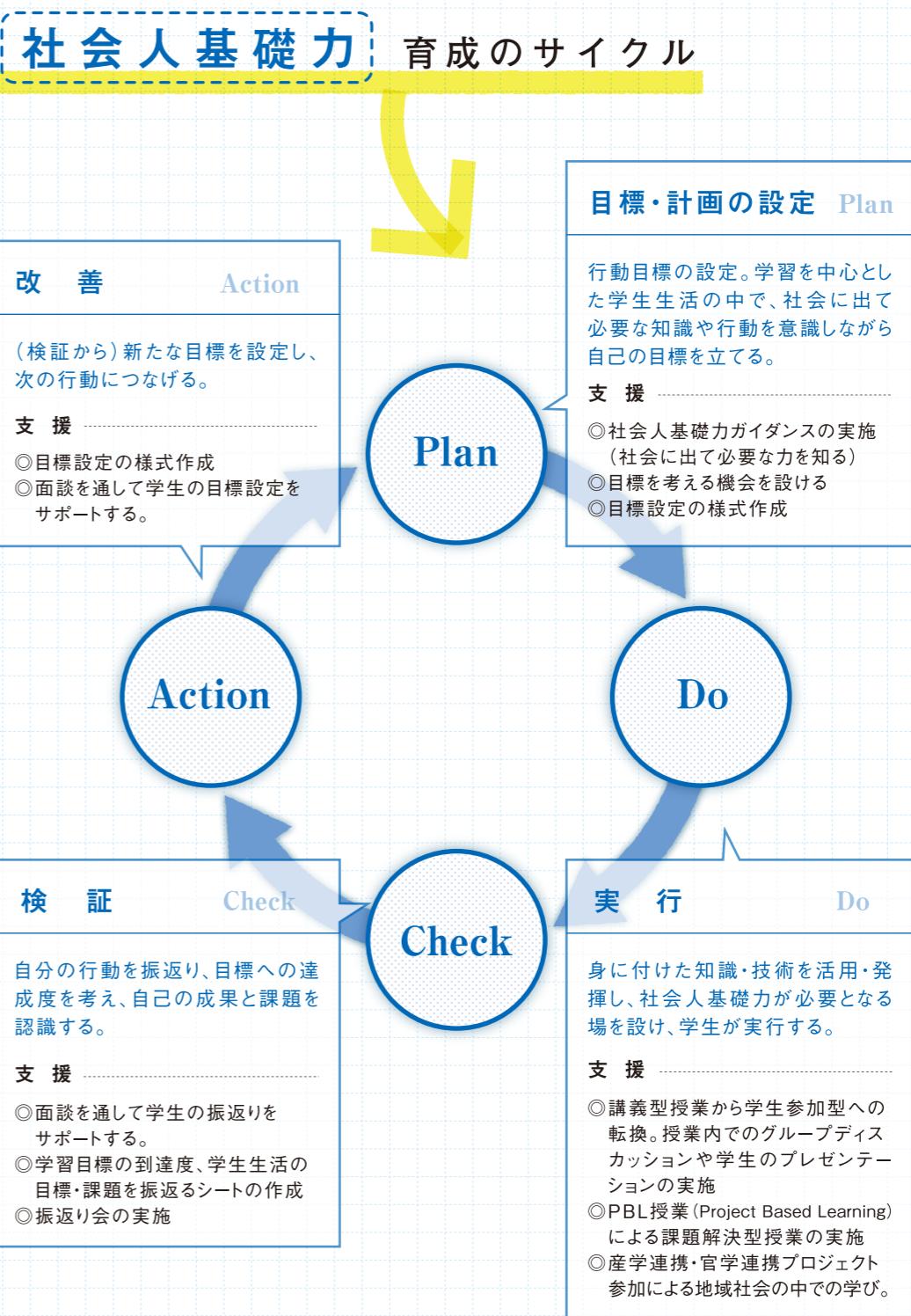
今年生誕三〇年を迎える寺部だい先生として、どのように生き、どのように生き抜いてきたのか、その生き様を回想しました。女性の自立と女性が学ぶことの大切さを提唱し、今に受けられる大きな足跡を残された寺部だい先生。学校法人安城学園が創立一〇〇周年を迎えることができたのは、明治45年4月に安城裁縫女学校が創立されたことに端を発しました。今年生誕三〇年を迎える寺部だい先生が、人として、女性として、安城学園の創立者として、どのように生き、どのように生き抜いてきたのか、その生き様を回想しました。

特 集：3

社会人基礎力育成

社会人基礎力とは？

社会人基礎力は経済産業省において、「職場や社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力」として平成18年に発表されました。社会人基礎力は「前に踏み出す力」「考え方」「チームで働く力」として、「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「情況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」の12の能力要素が提唱されています。



大 学

家政學部
管理榮養士專攻

夏休みもほぼ毎日を費やし課題に挑戦した。

去る10月20日(土)・21日(日)、安城市市制60周年記念事業の一環として、「健康フェア」が、市総合運動公園・青少年の家で開催されました。管理栄養士専攻としては今回、

安城市保健センターの依頼を受け、主に若い世代の食事改善を念頭に、2・3年生17名の学生が課題にチャレンジ。会場でその成果を披露しました。

テーマ1 「朝食のすすめ」

(管理栄養士専攻3年生10名 担当: 黒柳令子 准教授)

大学は今年春、安城市から、“朝食を食べない20歳代が多い。栄養バランスのよい朝食メニュー開発ができないか”との依頼を頂きました。そこで、管理栄養士専攻では、保険センターと協力し「簡単、美味しい、お手軽」な朝食レシピを考案。地元の食材を使ったおにぎりなど32種類のメニューを作り、その一部を健康フェアでお披露目しました。

白井 穎朗さん (管理栄養士専攻・3年チームリーダー)



「プロジェクトを始めるに当たり、まず学内で朝食に関するアンケートを実施し、イメージをつかみました。次にメンバー全員で「毎日自分で朝食を作り食べてくること」を長期的に実践。その結果、朝食を抜いてしまいがちな理由として「時間がない」「ワンパルになってしまった」

ターンになる」などの問題が浮き彫りになってきました。栄養管理を学ぶ者としては、専門知識を実際のメニューにどう反映させるかにまず心を碎きました。例えば「脳を活性化させたい人」「朝からパワー全開でいきたい人」にはそれぞれ何をどう食べてもらうか。必須アミノ酸であるトリプトファン一つとっても、お米と小麦ではその組成が違うので、脳や身体に対する意味が違ってくるんですよ。また、始めは食生活改善推進員(ヘルスマイト)の方たちとの意見調整も大変でしたね。あちらは家事経験が長くてアイデアも豊富。でも僕たちが加わる以

上は、専門知識を有效地に活かすことや若者ならではの味覚や感性も当然にして求められる。夏休みもつぶして朝から晩まで試行錯誤を繰り返すなど色々と苦労はしましたが、立場の違いや年齢差を超えて、最後は皆が納得の行くものができるので満足感はありますね。今回の貴重な経験を今後の勉強に活かしていきたいと思います」

若者の「食」に対する 意識改革を行政と 協力しながら実践

テーマ2
「誰でもわかる食事バランスガイド」

(管理栄養士専攻 2 年生 7 名 担当: 喜多村 尚 講師)

2年生7名のチームは、テーマ1の「朝食のすすめ」をフォローし、健康フェア来場者の、主に20歳代のお母さん及びその子どもさん達に、食事バランスの重要性を理解してもらうことを目的に人形劇を行いました。劇の後には食物栄養バランス表を用いて、毎日の食生活における具体的なメニューの考え方をアドバイスしました。

関野 哲志さん（管理栄養士専攻・2年チームリーダー）

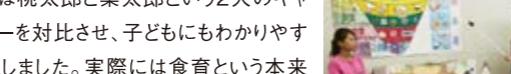


The image consists of two parts. On the left, a woman with dark hair, wearing a purple long-sleeved shirt, is smiling and looking towards the camera. On the right, there is a photograph of a group of women in a room. They are wearing matching pink t-shirts and are gathered around a white table, appearing to be performing a play or a skit. The room has colorful decorations and balloons in the background.

水野 真琴さん（管理栄養士専攻・2年サブリーダー）



「劇では桃太郎と梨太郎という2人のキャラクターを対比させ、子どもにもわかりやすく表現しました。実際には食育という本来の目的とストーリーの面白さを両立させる台本づくりや、人形や舞台などの媒体を製作するのに時間がかかってしまい、スケジュール管理の大変さや市の担当者の方との意見調整などの大変を感じました。普段勉強していることを他人に伝えることの難しさを学べました」。





短大 食物栄養学科

Go!おかざきジャンボリー
～徳川いわい 2012～

上級生と下級生のチームワークも良く、意思疎通は完璧。

地域活性化を目的として岡崎青年会議所が主催し、毎年地元の人たちで賑わう「おかざきジャンボリー」。今年も、短大・食物栄養学科の精銳18名が「チーム岡崎嬢」として参加しました。昨年はROCKドーナツの実演販売などで好評を得ましたが、今年は次代を担う子どもたちに地元の食べ物に関心を持ってもらうため、食育クイズや食品の重量当てク

尾崎 梨奈さん (食物栄養学科・2年リーダー)



「おかざきジャンボリーは毎年になりますます人気を博している地元の一大イベントです。今年は規模も大きく、会場も広くなったので、その分私たちの責任も大きくなつたと感じ、緊張感を持って臨みました。人の健康にとって、子どもの頃からの食に対する姿勢は、一生を左右しかねないとても大きな問題だと思います。私は将来、幼稚園・保育園の栄養士を目指しているのですが、栄養士学外実習で給食指導を経験していることもあり、当日は子どもたちを相手に楽しく食の話をすることができました。」



大学で学んでいる内容を「相手に合わせて楽しむ」ことを意識しました



紫米とその穀、精製した粉。栄養価は高く、様々な料理に応用ができる。

食育を意識し、 地元の地域活性化 プロジェクトに参加

イズ、地元特産物の販売などを行いました。当日はあいにくの台風で午後からのイベントは全て中止となってしまったにもかかわらず、90名近くのちびっ子達が列をつくって大賑わい。楽しみながら食に関心を持って頂くという当初の目的は十分達成できました。

田中 沙季さん (食物栄養学科・1年リーダー)



「小学生を中心とした子どもたちが相手なので、クイズの設問など、内容が難しくなりすぎないよう考えました。子どもの年齢に合わせて、質問を上級・中級・初級と分けて作り、興味を引かせるために話し方を変えるなどの工夫もできたと思います。ただ、幼稚園・保育園の子などに対しては、もう少し見せ方や話し方を変えるなどの改善は必要だと思いました。また、今回は物事を進めるまでの計画性という意味で課題も見つかりましたので、来年はそれらの反省を何らかの形で活かせたらと思います」



イベントを通じ、社会で求められる「自主性」「協調性」「考える力」などを身につけます。

担当:根間健吉准教授

「地域の活性化」「地産地消」を通じて、学生に社会人基礎力を身につけることを目的として活動を行っています。ここ岡崎やその周辺には、紫米やきくらげなど隠れた名産が意外と多いんですよ。それらを現代風に上手く料理やお菓子にアレンジできれば、農業の振興、エネルギーコストの問題解決、地域の活性化にも繋がります。大震災をきっかけとして注目を浴びている非常食に応用できるものも多く、今後私たちが地域社会、さらには日本全体に貢献できるテーマは山ほどあると思います。学生には自発性や協調性、考える力を身につける一方、そうした大きな観点から、日々の学びを捉えてもらいたいですね。」



大學

家政学部 家政学科
こどもの生活専攻

学生と先生の距離が近く、本音でぶつかり合える恵まれた環境が本学の特長。

こどもの生活に関わる「小学校教諭」「幼稚園教諭」「保育士」の免許・資格を取得することで、幼児期から小学校まで12年間の「教育の連携」を身につけ、教育者・保育者として活躍できる人材を育成するのが家政学部家政学科こどもの生活専攻です。また、免許・資格を取得するだけでなく、「人として成り立つ重要な成長過程において、こどもたちを健全に育てる」ためのノウハウを充分

岡島 亜美さん (こどもの生活専攻・4年)



「保育園の先生に憧れてこの学科を選びました。もともと子どもが好きで、自分なりに一生懸命勉強をした上で現場実習に臨んだのですが、実はそこで大きな壁にぶつかったんです。指導案を何週間もかけて作成し、毎日夜遅くまで悩んで考えたのに、それが保育園の現場では全く通用しない…。あの時は本当にショックでした。先生や仲間と話し合いを重ね、それを乗り越えることができたからこそ、今の私があるのだと思います。来年春からは私立の保育園の保育士として、大学での学びを活かして頑張りたいと思います」



後藤 実紀さん (こどもの生活専攻・4年)



「実習時にベビーマッサージの意義や楽しさに触れ、将来は専門の医院を開きたいと考えています。昔なら、例えばおばあちゃんや近所の人から自然に学んできたことが今ではできず、若いお母さんが孤立したり悩みを抱えてしまうことがありますよね。ですから私は妊婦さんの運動や胎教、栄養指導から始まり、産後のケア、新生児や乳児とのふれあいを通して、母子の心と身体のケアができる場が作れればと思うんです。社会人としての経験を積むため、一旦、ご縁のあったエステ関係の仕事に就き、じっくり将来を考えていきます」



担当:生島嘉人講師

学生には、人が人と向き合う根本の意味を理解してほしいと思い、接しています。子ども時代は、その人にとって、その後の人生にとってかけがえのない最も大切な時期です。その時期にどういう大人として接するか。知識や資格に頼るのではなく、どんな資質でぶつかるか。その意味を考えたとき、はたして大学教育では何を見せ、何を伝え、何を考えさせ、何を体験させるべきなのか。社会が必要とする人を育てる為に、私たちの責任と課題は大きいです。大学生活は多様な考え方に対し、視野を広くするまたないチャンスの場です。そしてその根っこにあるのは人としての心。温かく豊かな心を持って学生を様々な形で応援し、社会までの道案内をしたいと考えています。



心身ともに総合的に 子どもを見つめる スペシャリストの育成

に学びます。そのため3つの附属幼稚園や近隣地域の小・幼・保と連携し、地域の施設などで子どもたちとのふれあい活動も積極的に行う、実践的な技術を身につける環境を用意しています。また、1年次からの段階的な基礎学力向上や特別対策講座などで4年後の「採用試験」をサポート。就職支援として「公務員対策講座」も実施しており、卒業後をイメージした万全な体制を整えています。

荻野 沙希さん (こどもの生活専攻・4年)



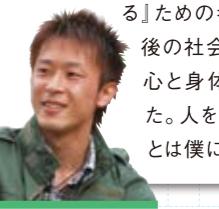
「大学では0歳から12歳までと幅広い年齢の子どもの発達や教育、福祉を学びますので、本当に有意義な時間が過ごせたと思います。3年生までは朝から夕方まで授業がびっしり。3つの免許・資格に加えて、社会教育施設で働くための社会教育主事の授業もありましたが、念願だった保育士になれることが決まりほっとしています。1年次から始まる実習体験や、福祉の現場経験豊富な先生に教えて頂けたこともすごく貴重な体験だったと思います」。



大田 和彦さん (こどもの生活専攻・4年)



「卒業後は病院で老人介護の仕事に就きます。病院には看護師向けの託児所もあり、そこでの保育の仕事もあるので、幼児と老人の両方のケアをすることになります。カリキュラムでは子どもだけにとどまらず、老人や障害者、養護施設など、様々な条件の『人と接する』ための考え方を学んできました。その中で僕は今後の社会で強く求められていくであろう老人の方の心と身体のケアをしたいと思い、進路を決めました。人を学ぶというこの大学・学科で勉強できたことは僕にとって一生の財産だと思います」



[美術部が岡崎の中心市街地をディスプレイ]

愛知学泉大学家政学部美術部が昨年度に引き続き、岡崎市の康生商店街と連携して、岡崎ジャズストリート2012に合わせて商店街のショーウィンドウや歩道などを飾り付け、祭りを盛り上げました。今年のテーマは「化け猫」。何でも岡崎は、化け猫騒動を扱った歌舞伎等で江戸時代から広く知られているそうです。美術部の学生が「化け猫」をモチーフにしてデザインを考案し、街なかをディスプレイしました。



短大 愛知学泉短期大学

[生活デザイン総合学科]

NDKファッショントレンドコンテストに今年も学生7名の作品が入選

9月22日(祝)、NHK大阪ホールにて『第69回NDKファッショントレンドコンテスト』が開催され、今年も生活デザイン総合学科の学生7名が入選を果たし、作品がショー形式で披露されました。

『第15回ヤングダイナミックコンテスト』の部では見事「織研新聞社賞」「奨励賞」「佳作賞」を受賞。また、『第69回ファッショントレンドコンテスト』の部にエントリーした学生も6位入賞、9位入賞と健闘しました。学生という枠組みではなく、いちデザイナーとして評価されるこのコンテストで入賞できたことは今後の作品制作に大いに励みとなることでしょう。



短大 愛知学泉短期大学

[幼児教育学科 第34回こどもまつり]

今年で34回目を迎えた『こどもまつり』は、保育者を目指す学生全員が子どもたちのために一年がかりで創り上げる短大幼児教育学科の一大イベント。とりわけ2年生にとっては、これまでの学習成果をまとめあげる場として大きな意味を持っています。

今年のテーマは「Happy Day Happy Time, エコまつり♪」。当日は星のペンダント・魔法のマント作り、宝さがし＆ボールプール、スタンプラリーなど、子ども向けの楽しいアトラクションがたくさん用意され、キャンパスが楽園に変身しました。



豊田 愛知学泉大学 豊田キャンパス

[東日本復興支援ボランティア]

硬式野球部の総勢73名が、8月1日(水)から4日(土)までの4日間、宮城県気仙沼市の大島にて復興支援ボランティアを行いました。

ボランティア活動は、十八(くぐなり)の浜、田中浜、龍舞崎の掃除です。砂浜に刺さっていた流木を撤去したり、細かな海藻やゴミや雑草を取り除いたりしました。現地の方の話では、観光の足が鈍っていて寂しいとのこと。そのためにも自慢の海岸が綺麗になることが最初の一歩なのだろう。

また、現地の大島中学校の野球部13名に野球教室を開きました。中学生はとても元気がよくて、楽しく教えることができました。



豊田 愛知学泉大学 豊田キャンパス

[サンマ祭り(豊田学泉祭と共に)]

10月20日(土)に東日本大震災復興支援事業として、また豊田学泉祭の企画として開催しました。岩手県大船渡市等との連携により、大船渡認定の焼き手の方もお呼びした本格的な炭火焼サンマです。600尾を用意しましたが、地域の方々や学生などにより15時頃には全て完売しました。



岡崎 愛知学泉大学 岡崎キャンパス

[小学生を相手に学生が食の出前授業]

食育や食生活、食文化について研究している家政学専攻・管理栄養士専攻の学生と、子ども教育のスペシャリストを目指す子どもの生活専攻の学生が協力して、10月22日(月)に知立西小学校1年生を対象にバランスの取れた食事の大切さを伝える食の出前授業を行いました。

学生たちは出前授業の中で「食事バランスガイド」の内容を分かりやすく伝える寸劇を上演しました。将来教師を目指す学生からは、「子どもたちの前に立つ貴重な経験ができる自信がついた」との感想も。11月には同じ小学校で1・2年生を対象にして2回目の出前授業を行う予定です。



ゆめっこリポート

岡崎城西高等学校 ▶ パワーリフティング部

全日本高等学校パワーリフティング選手権30年連続出場。 2012年・団体戦優勝!

安城学園高校の弦楽部は熱心な活動で知られている。現在は部員数37名。その多くは高校に入つてから弦楽を始めた生徒だが、技術レベルは高く、毎年全国的に見てもトップクラスの水準をキープしている。活動は土曜日を含めて毎日約3時間。年に10回ほどのペースでコンサートを開いており、その評価は高い。弦楽器の魅力や、全員で息を合わせて演奏する難しさなどを、メンバーの3人に聞いた。

加藤さん「私は中学生の時、弦楽器にあこがれてオーケストラ部に入部。コントラバスを担当してその魅力にはまつしまつたので、迷わず弦楽部に入部しました。高校のレベルは高く、初めはついていくのに必死でした。が、1年目の途中からなんとかきちんと音が出せるようになり、気がついたら後輩の指導をする立場になっていました」。

横田さん「私もテレビで弦楽器の演奏者に憧れ、中学でオーケストラ部に入部したのが始まりです。弦楽器は弓で弾くだけでなく弦をはじいたり、楽器を叩いたりと様々な

細かい指導は一切なし。

設備もシンプル

「驚かれるかも知れませんが、顧問は指導らしきことは何もしていません。もちろん安全に気を配る、スポーツマンシップを守る、高校生らしい態度を身につける等の指導はしていますが、練習の頻度や強度、技術面や栄養指導等は、全て先輩から後輩に引き継がれてきたものであり、あくまで個人の責任と自主性に任せています」。

顧問の石川先生はこう語るが、ダンベルつかつたことのない未経験者が、たった2年で全国レベルに達すること自体が驚きだ。部室の設備はシンプルそのもの。ベンチプレス、

全日本高等学校パワーリフティング選手権30年連続出場。

2012年・団体戦優勝!

今年の夏の大会の前には、全国大会優勝経験者の経営するジムに1泊2日で指導を受けに行く等、大会で生徒の一人が自発的に人間

には最高の環境だと思います」。

責任者の立場にならて苦労した点は?

加藤さん「何でも率先しないといけない点です。お客様の目の前で演奏

するわけですし、大学生やプロの方たちと共に演ることもあるので、マ

ナーや態度、言葉遣いまで、私達が

学園を代表するつもりで行動して

います」。

坂本君「僕の場合は中学の時にた

またま出合つたのがオーケ

ストラ部でした。弦楽器は

奏法があり、バリエーションが増えると本当に魅力のある楽器です」。

坂本君「僕の場合は中学の時にた

またま出合つたのがオーケ

ストラ部でした。弦楽器は

愛知学泉大学附属桜井幼稚園

♥ 中村家 母 沙織さん
子 風花ちゃん(おおぞら組)
圭介君(わくわく組)

子どもの幸せを一番に考えてくださる
素敵な幼稚園です。

桜井幼稚園の“子どもが子どもらしくいられる、のびのびとした雰囲気”が好きです。入園したころは、慣れない集団生活に戸惑っていた風花と圭介でしたが、園が大切にしている「遊び」を通して、自分で考える力やたくましさ、優しい心を育んでいるようです。おかげさまで、二人とも楽しく通園しています。

運動会は、学年ごとに開催されています。ここでは、子ども一人ひとりが主役です。競技内容は、その学年のテーマに沿って組み立てられていて、先生のアイデアと工夫が凝らされています。大人も子どもも裸足になって、芝生の園庭を駆け回りました。とても心に残る、笑顔いっぱいの運動会でした。

今年度は、絵本の読み聞かせボランティアの会ができました。託児付きなどもあり、多くのママたちが活躍中です。いつもと違うママの姿を見て、子どもたちも喜んでくれています。園と保護者の距離が近いのも、桜井幼稚園の良いところの一つ

芝生の園庭には、どろんこ池やお花畠など自然を全身で感じる仕掛けが一杯。
“褒めて育てる”温かい血の通った幼稚園です。



愛知学泉短期大学附属幼稚園

♥ 天野家 母 真理さん
子 真弥ちゃん(地球組)

子どもをやる気にさせてください
環境が気に入っています。

先生方の温かいお人柄、園の雰囲気に惹かれて、迷わず入園を決めました。真弥は音楽と身体を動かすことが大好き。しかし一方で負けず嫌いで自己主張が強いなあとこともあります。外遊びの時間にお友達に声を掛けて練習して臨んだ運動会のクラス対抗リレーで負けてしまった時は大号泣でした。でも、園ではそれも“ものおじせず自分を素直に表現できる頑張り屋さん”と前向きに捉えてくれるんです。



鼓笛パレードでは、一糸乱れぬ行進に沿道の方も驚いていました。
発表会などでも、緊張せずに堂々と振舞う姿にわが子の成長を感じます。
のびのびとした雰囲気の、優しさとチャレンジ精神があふれる幼稚園です。

七夕まつりでの鼓笛パレードにも感動しました。たった数百メートルですが、大勢の観客の前での初めての演奏と行進。親が緊張してしまう場面でも、子どもたちは一糸乱れず堂々と振舞っていました。私なんて思わず涙が出てしまって、後で子どもに笑われたくらいです。

短大幼稚園ではたくさんの行事を通して、子どもに大きな自信を与え、自分の可能性にどんどんチャレンジさせてくれます。頑張ればその分素直に褒めてくれる雰囲気の中、何に対しても積極的になってきた娘を見て、この幼稚園を選んで本当に良かったなど感じる毎日です。

幼稚園お母さんインタビュー

安城学園の幼稚園に 入ってよかったです

本学の三幼稚園の建学の精神は「真心・努力・奉仕・感謝」。
子どもたちのやさしい気持ち、素直な心を伸ばすことを大切にしています。
また、教員一人ひとりが子どもたちそれぞれの個性や成長の度合いを見極め、
きめ細やかな保育ができるよう努めています。



♥ 愛知学泉短期大学附属幼稚園 ♥

♥ 愛知学泉大学附属桜井幼稚園 ♥

♥ 愛知学泉大学附属幼稚園 ♥

愛知学泉大学附属幼稚園

♥ 三木家 母 多江さん
子 奏葉ちゃん(太陽組)

たくさん身体を動かして、
色んな体験をさせてもらって、
幸せな幼稚園生活です。

数年前、安城市内に引っ越ししてきた際に体験学習に参加させて頂き、ここしかない!と思い入園を決めました。体操や水泳などは、毎週プロのインストラクターを外部からお呼びして、幼児専用プログラムで楽しく教えてくれますし、ネイティブの先生による英語レッスンや、ピアノ教室・造型教室などオプションの課外学習もすごく充実しています。



自然に触れあう催しも多く、芋ほりやシジミ採り、螢の放流やプラネタリウム、年長時の1泊2日のサマーキャンプなど、子どもの好奇心を刺激するイベントが多いのも魅力ですね。

奏葉は恥ずかしがりやで、親のそばから離れない娘だったので、幼稚園になってからは随分と積極的になりました。読書も大好きになり、ひらがなの練習を毎日行い、水泳教室ではクロールで10mも泳げるようになったんです。子どもの可能性を広げてくれる環境は大切だと実感しています。

習い事で他にいなくてもいいくらいカリキュラムは充実!
わくわくときどきの知的好奇心を刺激してくれるイベントが盛り沢山です。
色々な体験を通じて、豊かな感受性を育みます。

部活・クラブ活動

岡崎城西高校
OKAZAKI JOHSEI HIGH SCHOOL

サッカー部



高校総体愛知県大会で準優勝を飾り、2年ぶりに全国高校総体(インターハイ)に出場しました。

パワーリフティング部

愛知県大会、東海大会を突破し、30回連続出場の全国高校選手権大会に今年は19名が参加。その内11名が6位までに入賞し、学校別合計得点で優勝しました。また、杉浦康宏さん、畔柳悠生さん、南場航太朗さんはポーランドで開かれた世界大会に日本選手団として出場しました。

和太鼓部



7月の9日間に、台湾政府の招待で台湾において遠征活動を実施。「2012宜蘭國際童玩藝術節(宜蘭國際おもちゃ芸術祭)」で全8回、台湾の観客を前に和太鼓の演奏を披露しました。

全国レベルの実力! スポーツ系クラブと文化系クラブ。
学生・生徒の潜在能力開発の一因を担っています。

安城学園高校
ANJOGAKUEN HIGH SCHOOL

吹奏楽部



10月のマーチング選手権東海大会に150人近い大編成で臨んで出場し、金賞だけでなく最優秀賞を獲得。11月の大阪城ホールで行われる全国大会に出場が決まりました。

卓球部



高校総体愛知県大会で、加納慶子さんが女子シングルスでベスト8、岡崎・加納ペアが女子ダブルスで4位入賞し、全国高校総体に出場しました。また、全日本卓球選手権大会県予選の女子シングルスで、岡崎優香さん、加納慶子さんがベスト8、全国大会出場権を獲得しました。

ダンス部

6月の全国高校生ダンスドリル選手権大会東海大会 Hip Hop部門(メディアム編成)で第2位。4年連続で全国高校生ダンスドリル選手権大会全国大会に出場し、世界大会の出場権を獲得しました。

愛知学泉大学・短期大学
AICHI GAKUSEN UNIVERSITY
AICHI GAKUSEN COLLEGE

バスケットボール部

女子Aチームが春・秋の東海大会及び西日本大会で優勝。男子は春・秋の東海大会で準優勝し、共に12月の全国大会の出場権を獲得しました。また高校生から社会人まで出場する愛知県バスケットボール選手権大会では男子チーム、女子チームともにアベック優勝しました。



空手道部



全日本大会の地区予選を兼ねた9月開催の秋季東海地区大学空手道選手権大会の団体組手において男女共に準優勝。また、個人組手においては優勝・準優勝、個人形でも優勝・準優勝の成績を収めました。11月に日本武道館で開催される全日本大学空手道選手権大会へ出場します。

剣道部

現代マネジメント学部1年の藤原郁哉さんが東海学生剣道選手権大会で敢闘賞(ベスト8)を受賞。全日本学生剣道選手権大会への出場権を獲得しました。また、東海学生剣道優勝大会の入替戦で男子は見事勝利を収め、1部昇格が決定しました。

祝!ロンドンオリンピック日本代表出場!

岡崎城西高校の陸上競技部OB・OG3名が、今年のロンドンオリンピック陸上競技に日本代表として出場しました。去る7月には高校体育館で盛大な壮行会が催され、全校生徒がロンドンでの活躍を祈る大きなエールを送りました。



★中村明彦さん

男子400mハードル

(平成20年卒業・中京大学4年生)



★市川華菜さん

女子4×100m×4リレー

(平成20年卒業・中京大学4年生)



★山本聖途さん

男子棒高跳

(平成21年卒業・中京大学3年生)



発行／学校法人 安城学園

〒446-8635 安城市小堤町4-25 TEL(0566)77-7788

http://www.gakusen.ac.jp/anjogakuen_pr/

企画・編集／株式会社 パピルス

ゆめっとプラザは再生紙(古紙100%)を使用しています。